

奈良県の子どもたちのために

今年の4月も、平成30年度新規採用の先生方を私たちの新しい仲間として迎えました。今を盛りに咲き誇る桜に見守られ、各校種の代表の方に、「頑張ってください。奈良県の子どもたちを頼みます。」と声をかけながら、辞令を交付しました。

私は、次代を生きる本県の子どもたちには生涯にわたって「学ぶ意欲」をもち続けてほしいと願っています。「学ぶ意欲」は全ての力の源であり、自身の可能性を最大限に伸ばす「鍵」になると考えるからです。子どもたちの「学ぶ意欲」を引き出す営みは、平成28年3月に策定された「奈良県教育振興大綱」の基本理念である「^{いくじん}育人～県民一人一人が学び、育ち合い、潜在力を最大限に引き出す～」に合致します。その営みの直接の担い手である奈良県の先生には次の3つを備えていていただきたいと思います。



【専門的力量】 知識、専門性において優れ、その道において卓越していること。

【人間的な魅力・人間性】 コミュニケーション能力があり、人として魅力的であること。

【学び続ける意欲】 子どもの意欲を高めるため、教員としての力量を高める向上心をもち続けること。

学校は誰のためにあるのかと問われると、それは「子どものため」と誰もが答えるでしょう。では、学校は何のためにあるのかと問われれば、私は、学校は「不可能を可能にするため」にあると答えます。昨日できなかったことが今日できるようになる。今日上手にできなかったことが、明日少し上手にできるようになる。学校は学びの場であり、伸びる場であり、いくつもの「感動」がちりばめられている、そういう場所であってほしいと思います。子どもの成長を願いつつ、自らを磨き続けることで培った深い専門性と豊かな人間性で、子どもたちと正面から向き合うこと、そしてその成長に立ち会えることが教員の「喜び」であり、「やりがい」です。

みなさんにとって、「記憶に残る先生」とはどのような先生ですか。

うれしいとき共に喜んでくださった先生、辛いとき優しく寄り添ってくださった先生、ためらっているときそっと背を押してくださった先生、時に厳しく指導してくださった先生……。このような先生との出会いにより、教員を目指した方もいるのではないのでしょうか。先生との出会いは、子どもたちの生涯に大きな影響を与えます。そのときは分からなくても、成長した子どもたちの人生に生きている教えもあります。

教員には定年がありますが、「先生」を引退することはできません。「先生」はいつまでも教え子たちにとって「先生」であり続けるのです。教え子がいくつになっても「先生」として、その言葉が、その存在が教え子たちの心の支えとなる、奈良県はそんな「先生」を求めています。

奈良県の教員を目指すみなさん！

教育は未来をつくる営みです。私たちの仲間になって、一緒に奈良県の子どもたちのために頑張りましょう。

奈良県教育委員会教育長 **吉田 育弘**